

だっしゅ!!

2013年8月22日発行 第5号
自治労北海道日高地方本部青年部
発行責任者 谷口 亮介
(浦河町職労)

第26回反核平和の火リレーが無事終了!

8月1日から8月2日の2日間に渡り行われた、第26回反核平和の火リレー日高地区が皆さまのご協力により、無事終了することができました。ありがとうございました。

ところで…皆さまは反核平和の火リレーをご存知でしたか? わからない方もいるかと思うのでちょっと説明を。

反核平和の火リレーとは…

「語り継ごう、走り続けよう」をスローガンとし、1982年に被爆地ヒロシマの青年たちによって広島市平和公園に燃え続ける「平和の灯」を掲げたトーチを手から手へ走りつなぐものとして開始されました。北海道では、1988年に幌延から泊までの430kmを約1,000人のランナーで走りつなぐものとして始まり、現在では道内で1万人規模の大きな取り組みとなりました。

○8月1日 (日高町～新ひだか町静内)

1日目は日高町総合支所をスタートし、新ひだか町静内まで火が走りつながれました。

日高町では、一般参加者3名が共に走り、そのうち2名の方が新聞の記事を見て参加していただくという非常に喜ばしいこともありました。

また、新冠町ではスポーツ少年団の子供たちが地区ランナーとして参加し、共に平和の火を走りつないでくれました。



○8月2日 (新ひだか町三石～えりも町)

2日目は新ひだか町三石から日高地区のゴールとなるえりも町まで火が走りつながれました。

浦河地区の話になってしまいますが、浦河地区では自治労の仲間に加えて北教組の仲間がランナーとして参加してくれました。そして、日高地区の仲間が走りつないだ平和の火がえりも町に到着し、日高地区は終了となりました。



○反核平和の夕べ in 新ひだか町静内

8月1日に新ひだか町公民館にて、第26回反核平和の火りレー「反核平和の夕べ」が開催されました。今回の夕べでは、「福島県から避難してきた方の話し」と題して、ご本人が参加できないため、事前に聞き取りをした映像と話の内容をまとめたペーパーを用いて吉田実行委員長より話がありました。

【主な内容として…】

- ・避難所に入れる状況ではなかったため、北海道留萌市の知り合いのところへ行くことにしたが、道中立ち寄った秋田県と青森県境のスタンドで給油させてもらえなかった。理由は福島ナンバーで福島から来たことで放射能がついているからとのこと。
- ・報道では盗難や強奪はなかったとされているが、実際は違い自分の実家を含む周りの家では電気製品が全て盗まれており、立ち入り禁止区域に置き去りとなった犠牲者が身に着けていた金品が取られ、中には時計を取るため腕を切り落とされている死体もあった。
- ・エネルギーについて考えて欲しい、いつでも同じことが起きると思い対策をして欲しい、つながりを大切にしたい。

次に自治労えりも町職の三浦香菜子さんより、「オキナワ平和の旅に参加して」と題して講演がありました。講演ではスライドを用いて沖縄の現状や旅に参加しての感想を交えながら話しがあり、現在も問題となっている米軍基地やオスプレイ等について考えさせられる内容でした。

最後に、分散会形式でのグループ討議が行われました。限られた時間の中での討議で、深い話しまではなかなかできませんでしたが、良い意見交流の機会となったようです。



もうすぐ夏期交ですよー！

第30回自治労北海道青年部夏期交流集会在間近に迫っている今日この頃、準備は進んでいますか？

事前アンケート・職場レポート・単組レポートで苦戦している方もいるかと思いますが、全道の仲間と交流できる貴重な場となりますので、楽しみつつ学習を深めていただきたいと思います。

持ち物については、後日地本を通して連絡があるので忘れ物のないようにお願いします。

良い夏の思い出を！！

発行者より
教宣というものを作成するのが初めてで、いまいなものとなっているかもしれませんが我慢してください。

自分は行けませんが、夏期交では飲みすぎに注意して価値ある時間を過ごしてきてください！

次号担当は…
様似町職の釣くんです！！